

各種団体意見交換会

実施報告書

平成29年3月

八代市

■八代市次期総合計画策定に関する意見交換会■

メインテーマ 『県南フードバレー構想の推進と農林水産業の振興について』

日 時：平成29年1月19日（木） 10：00～11：30

出席者：NPO 法人二見わっしょいファーム、八代森林組合、やつしろ菜の花ファーム987

1 実施概要

県内有数の農業生産地という特性に着目し、食品関連産業を中心とした企業、研究施設等の誘致や地場企業の振興により集積を図ることが位置づけられている県内地域において、平成25年3月に熊本県南フードバレー構想が策定され、現在各種団体が、その実現に向け取り組んでいるところである。このような状況のなか、フードバレー構想に関する、現在及び今後の取り組みや、これらの基礎となる第一次産業の振興についてヒアリングを実施。

10：00



1. はじめに

- (1) 趣旨説明
- (2) 八代市総合計画の概要説明

10：10



2. ミーティング

- (1) 自己紹介
 - (2) 意見交換
 - ① 県南フードバレー構想の推進と農林水産業の振興について
 - ② 今後のまちづくりについて
- (サブテーマ)
- ・八代地域におけるにぎわいの創出
 - ・八代の自然環境保全等
 - ・社会福祉・こども子育てを取り巻く環境
 - ・協働によるまちづくり(地域のコミュニティ形成)

11：20

2 各団体からの意見

各種団体のみなさまから、以下のようなご意見をいただきました。

- 当ファームが取り組んでいる「地域再生活動」とは内循環を生む連携のことであり、その要は「人」である。「人」が来て、滞留することが大切である。
- 地域コミュニティ維持のためにも、「人」を基本とした定住促進協議会で移住・定住の促進は大切。
- 今は当ファームだけの取組であるが、まちづくりの視点からは、全市的な連携が必要である。「やしろマルシェ」は第一次産業の視点からの取組である。
- 八代市の特徴は、当ファームをはじめ多くの民主導の団体の活躍が大きい。ただ、八代市のPRのためのイベントに呼ばれるのは、官主導のケースが多い。この場合、東京での移住・定住相談会等で二見の紹介とともに、市全体についてPRする。他都市は市の観光PRになっており、特徴がない。二見は具体的な個別のPRをしており、市の観光PR等全市的なものが一体化すればいい。フードバレーであれば、市全体で総花的になりそうだが、コアな部分が必要。これが八代の場合できる。
- 八代の民主導は他自治体から見ればうらやましいと思う。団体が充実しているのはいいことである。
- ただ、市全体のまちづくりを進めていくためには、行政側の地域の発想ややる気を、資金面で支える柔軟性と決断力が必要である。当ファームとしては、今後、二見地区に限らず、モニターツアーをしたい。そのためにも市からの支援は大切である。
- 地域再生を拡大するためには、事業として育て上げることが必要であり、そのためのコーディネータとなりうるキーマンがほしい。地域おこし協力隊のスキルアップ、移住・定住者の育成等が考えられる。育てていくためには、テーマを絞り込む必要がある。
- 市としては、移住者の受け入れ体制づくりを進め市内全域に広がる機運を作ってもらいたい。
- 今後の取組みのキーワードは、「観光客の導入」、「異業種交流」と「人材」である。
- 「観光客の導入」「異業種交流」については、当ファームの基本である「菜の花を通してイ草を知る」をキーワードに、イ草の工程等ができる施設等を通して、観光客の導入や異業種との交流を図る。
- 「異業種交流」については、「インテリアとしてのイ草」、「カラーリングタオルとイ草」「アロマ効果」のキーワードを考えたい。
- 大切なのは、これら「点」と「点」をつなぐ「人材」である。そのために、高校生、大学生等若い人を育てたい。

- 市としては、これら「人材」を育てるためのサポートをお願いしたい。
- 旧町の伐木時期が来ている(50年)。伐採は一時衰退したが、今また復活している。(伐採は専門の民間企業が担っている)
- そのため、これまでの「造林」から「伐採等の林産」にシフトする必要があり、そのためには、林野庁からの補助の観点含めまとまりのある経営計画の策定が必要であり、その要となるプランナーの要請が喫緊の課題である。現時点では経営計画なりを理解して進めていく人材がいない。
- 今後、林道を作って材木を出荷し、収益をあげる地点を増やすことによって、点から線へ、線から面として市全体に広げることが必要であり、この計画づくりがプランナーの仕事である。
- 現在、プランナーは5人であり、計画づくりを含め京都日吉町で研修がある。
- 林業の担い手育成の視点からは、林野庁の「緑の新規就業」総合支援事業があり、若い人を中心に移住・定住者を対象に、人材確保を図りたい。林業は、定年後も就労できる等のメリットはあるが、安定した賃金や就労体制が必要である。
- まちづくりの観点からは、泉地区の広葉樹等は景観としての観光資源の要素をもっている。
- 今後は、地域づくり協議会と連携して、中山間地域をそれぞれの地区のもつ地域資源を観光素材(現場での林業体験等)として結びつけて帯としてつなげていくことが必要である。この横の連携を結び付けることのできる「人材」がほしい。市外からの人材投入で化学反応を起こしたい。

メインテーマ
『八代地域におけるにぎわいの創出について』

日 時：平成29年1月19日（木） 13：30～15：00

出席者：一般社団法人 DMO やつしろ、NPO 法人八代市体育協会、八代市工業振興協議会、
八代市文化協会、

1 実施概要

近年、八代港におけるクルーズ客船寄港の飛躍的増大や、八代妙見祭のユネスコ無形文化遺産登録など、企業・経済活動のみならず、様々な分野において地域の活性化がはかられつつあります。そういった環境をとりまく関係団体に対し、現在の取り組み状況と、今後の取り組みについてヒアリングを実施。

13：30



1. はじめに

- (1) 趣旨説明
- (2) 八代市総合計画の概要説明

13：40



2. ミーティング

- (1) 自己紹介
 - (2) 意見交換
 - ① 八代地域におけるにぎわいの創出について
 - ② 今後のまちづくりについて
- (サブテーマ)
- ・ 県南フードバレー構想の推進と農林水産業の振興
 - ・ 八代の自然環境保全等
 - ・ 社会福祉・こども子育てを取り巻く環境
 - ・ 協働によるまちづくり(地域のコミュニティ形成)

14：50

2 各団体からの意見

各種団体のみなさまから、以下のようなご意見をいただきました。

- DMO、DMCの競合として 熊本、玉名(行政)、人吉(産交)等があり、県南には2つある。熊本とはラグビーで連携したい。
- クルーズ船関連では、八代港については、夏から港湾管理は県となり、港湾管理、外港のターミナル管理も、DMO やつしろが指定管理者となる。それに伴って、4月から上天草の松島へのコース(イルカウォッチング等)も考えている。
- 八代についても、計画づくりをしている。H29のクルーズ客は35万人、1割でもくれば OK と考えている。
- 脱爆買い後の集客のメニューを6つほど作っている。
- 「フードバレーと観光」のキーワードでは、基本はクルーズ客中心の滞留型と考えており、商店街アーケードが中心になるべきであり、第一弾は、外(熊本、福岡等)から商品を持ってきて売ってもらう。ひいては地元もというストーリーを考えている。それを契機に地元モチベーションをもってもらいたいが、なかなかあがらない。このようなイベントは基本、ボランティアが中心であり、これがプレッシャーとなり、地元は意欲を見せない。ここでは、公益事業と収益事業とのバランスが大切である。これらはクルーズ客に対するもの。
- 市全体では、泉(伝統芸能 平家の里の能舞台の活用)、五家荘も外国人多く、体験型のツアーにしたい。アテンドではなく、SNS の活用を含め多言語化へ対応したアプリ等によりスマホでガイドンスされるようなしなかけを開発したい。そのためには、情報発信を担う人材が必要である。
- ベースは「観光カルテ」を活用した旅行商品との連携であり、その他、地元企業を対象にした工場見学も考えられる。
- 基本は門前町構想が必要である。何をもって人を集めるか。6時間の中でどうパッケージを作るか。
- 喫緊の課題は、小学生 ABC バドミントン、ラージボール卓球、世界ハンドボール等全国規模の大会への対応のための総合体育館の駐車場スペースの整備である。
- その他、自主事業のなかに H28から寝たきり予防 講座を設けているが、もっとスポーツと健康づくりを結び付け、生涯スポーツの推進によるまちづくりに関わっていきたいと考えている。
- 具体的には、後期高齢者認定協議会とタイアップして、運動を通して医療費削減への相乗効果を考えた取組を考えている。

- 市からの文化協会や文化への協力には大きなものがあるが、課題は伝統芸能が少子高齢化で消えていることである。
- 今後は、クルーズ客を中心としたインバウンドも対象に、妙見祭の前夜祭で民俗芸能をお披露していることから、常設の施設等が必要である。
- あと、着付け、紙漉き等もあり、体験型の取組も考えられる。
- 八代市にある5大企業はすべて装置産業であり、ものづくり文化がない。結果として下請けの技術が育たない。
- 一方で、本市には、魅力的な地元中小企業が多数立地しているものの、就職を希望する地元の高校生などの認知度が低く、雇用に結びつかない状況にあるのではと推測される。さらに、にぎわいの観点から、働く人が少ない。結果として外国人労働者が入ってくるといった状況が予想される。
- よって、今後は地元企業の人材確保について、地元中小企業の魅力発信と就職希望の新規高校卒業者と企業とのマッチングに対する取組が必要である。
- そのためには、現場を見てくれることが大切である。そのためのアテンドをする人が必要。
- 物流としては、ターミナル機能を使って、八代を物流拠点としたいが、誘致する場所がないのが課題であるが、台湾、中国向けの輸出は八代中心に考えるべきであり、特区として指定等も必要ではないか。「熊本の入口は八代」をもっと出すべき。
- 八代経済圏としては、天草・島原は圏域に入れるべきではないか。
- その他、農産物の加工場がないので、どう育てていくかが課題である。。

メインテーマ 『八代の自然環境保全等について』

日時：平成29年1月19日（木） 15：30～17：00

出席者：次世代のためにがんばる会、八代野鳥愛好会、

1 実施概要

八代市は多様な自然環境に恵まれており、今後のまちづくりにおいては欠かせない八代市の貴重な地域資源であり、ここでは、日頃から八代市の自然環境について考え、保護活動に努めている諸団体に対して、日頃の活動の内容と、そこから見える今後の課題等についてヒアリングを実施。

15：30



1. はじめに

- (1) 趣旨説明
- (2) 八代市総合計画の概要説明

15：40



2. ミーティング

- (1) 自己紹介
 - (2) 意見交換
 - ① 八代の自然環境保全等について
 - ② 今後のまちづくりについて
- (サブテーマ)
- ・県南フードバレー構想の推進と農林水産業の振興
 - ・八代地域におけるにぎわいの創出について
 - ・社会福祉・こども子育てを取り巻く環境
 - ・協働によるまちづくり(地域のコミュニティ形成)

16：50

2 各団体からの意見

各種団体のみなさまから、以下のようなご意見をいただきました。

- 活動の中心は、球磨川を使った河川環境協力隊、川の安全対策、ごみの減量化、分別をテーマにした環境出前講座等である。
- ごみの減量化に対する市民の意識は高く、市からの情報提供、周知徹底でごみは減る。
- ごみの分別を中心にした環境出前講座は親子に好評であり、全ての保育園、幼稚園、20小学校に広めたい。ただ、4000人を対象にしたアンケート結果では、わからないままごみ分別していることがあり、立会人への教育が十分ではない。
- 遥拝堰をまちづくりの一つとしてアピールしてほしい。自然石積による八の字にして元の堰にしてほしい。遥拝神社の桜も含め観光資源としての活用も。
- 水島は景行天皇の碑があるのみであり、景観資源として活用されていない。ラムサール条約と絡めて観光資源として活用してはどうか。
- 八代市は地域資源、観光資源はいっぱいあるのに、PRがへた。市民と一緒につくれるシステムが必要である。また、優れた活動をしている民間団体等のもつネットワークをつなぐコーディネータが必要である。水、自然が観光資源であり、食はついてまわる。
- 観光資源活用の例として、クルーズ客対象に、遥拝堰から球磨川の間でイベントする「まるごと球磨川」等。
- 市は場所を提供するなどの支援をしてほしい。
- 球磨川河口の干潟のラムサール条約の登録は必要。市の登録が先なので、是非お願いしたい。
- 水島とラムサール条約のむすびつきは大切である。
- 「鏡スプーンビル(へらさぎ類)オイスター」、「球磨川へらさぎ青海苔」、「八代ラムサールトマト」等ラムサールブランドをつけることはどうか。環境と調和させることが大切。
- 宿泊については、市内でおもてなしができる宿があるので、野鳥観察と合わせてPRする。
- 自然や文化が融合した優れた環境等を「まるごと八代」として関係課で一緒になって取り組んではどうか。そのためには、これらをつなぐコーディネータが必要である。

メインテーマ 『社会福祉・こども子育てを取り巻く環境について』

日 時：平成29年1月20日（金） 10：00～11：30

出席者：特定非営利活動法人 とら太の会、八代市社会福祉協議会、八代市身体障害者福祉協議会、八代市民生委員児童委員協議会、八代市老人クラブ連合会、八代手をつなぐ育成会

1 実施概要

近年、福祉行政を取り巻く環境は、高齢者における地域包括ケアシステムの強化、障害者における差別解消や雇用促進、子ども・子育て支援の枠組みの変化等めまぐるしく変化しています。

併せて、DV法の改正、生活困窮者自立支援法の制定等支援の声が届きにくい層への支援の輪も拡大しつつあります。

このような状況を踏まえ、それぞれの分野について、今後の取り組みについてヒアリングを実施。

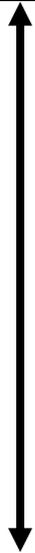
10：00



1. はじめに

- (1) 趣旨説明
- (2) 八代市総合計画の概要説明

10：10



2. ミーティング

- (1) 自己紹介
 - (2) 意見交換
 - ① 社会福祉・こども子育てを取り巻く環境について
 - ② 今後のまちづくりについて
- (サブテーマ)
- ・県南フードバレー構想の推進と農林水産業の振興
 - ・八代地域におけるにぎわいの創出について
 - ・八代の自然環境保全等
 - ・協働によるまちづくり(地域のコミュニティ形成)

11：20

2 各団体からの意見

各種団体のみなさまから、以下のようなご意見をいただきました。

- 一番の課題は後継者不足である。協議会の平均年齢は66.2歳であり、地域活動とはいえ、見守り・声かけ対象の高齢者も増えることが予想され、老老介護のような状態である。
- 連携先としては、市社会福祉協議会、校区社会福祉協議会、地域包括支援センター等である。老人クラブとの連携は今のところない。また、町内が大切であり、町内会長との連携は大きい。
- 個人情報保護の流れから、行政との情報共有は難しいが、同協議会としては最低限の情報で十分である。ただ、昨今の生活困窮者問題は、もともとは民生委員の本来の仕事であったが、個人情報の問題、対象者本人が直接市に行き、民生委員には生活保護受給等の実態を隠す等知らせたくない、知ってもらいたくないという意識を背景に的確な情報が伝わらず、民生委員は何も把握できない状態である。本来なら行政と対象者のつなぎ役であったが、今はほとんどない。就労支援もしかりである。
- 情報身障者情報もない。よって、身体障害者福祉協議会との連携もない。
- 喫緊の課題は合併後の組織の問題である。組織・会員に対する勧誘に関する情報提供がなくなったあるいはもらえなくなった。その結果、会員勧誘にも限界が出て、若い人が入会せず、会員減少と高齢化を招いている。
- 合併後、諸般の事情により退会が目立ち、組織的にも旧八代協議会はなくなっているなど、組織としてなりたない状況にある。結果、障害を乗り越えて、切磋琢磨しようという環境にない。また他組織との横のつながりがない。
- もう一つの課題は、移動手段の確保であり、公共バスといった足がないと福祉が遠のくと感じている。
- まちづくりの視点からは、行政からまちづくり協議会に働きかけて、町内での福祉活動を進めるべきである。
- 福祉施策の充実や福祉事務所の増加は望ましいし、「協働のまちづくり」が時代の流れとなっている中、障がい者サポーター養成等に積極的に参画したいが、障がい者本人や家族が、自立や社会参画に向けて努力しようとする姿勢が弱くなっている。まず、会に若い世代が入ってこない。
- ただ、相模原の事件後障がい者の安全・安心への関心は高まっていると思う。併せて、震災も含めまずは地域で動くことが大切である。本市の場合、「とら太の会」のような団体の方が活発である。

- 地域で動くことは大切なことである。そのために障害者の種別をなくすことが重要であり、協働のまちづくりを大切にしていける必要がある。
- 若い子どもたちから高齢者まで、障がいの有無を問わず、ともに生きていくことをめざして作業所や保育所、学童保育などを1軒の建物内で行っている
- 今は、不登校やひきこもりの子どもや大人たち、福祉のはざまにする人たちに居場所を提供しているが、福祉事務所に通う人たちの時間外の居場所もないということが課題となっている。
- 見学は県外から500から600きて、そのうちの大半は民生委員だが、八代の民生委員はそうはいない。結果、地元が見えないとはそういうことであり、地域にある資源をきちっと知らないといけないと思う。それをつなぐのは市の仕事だと考えている。
- 会としての情報の連絡先は民生委員にしている。
- 不登校の場合、会で見ているのは15歳未満であるが、通常は「八代圏域地域療育センター」があるから必要ないといわれるが、療育センターにいかなければ家に引きこもるか、会にくるしかない。
- 療育センターの放課後児童ディサービス等を利用する子が増えているが、何をしているかわからない。それは、既存の保育園、幼稚園がお手上げになるから、当会の保育園にはいつている。既存の保育園、幼稚園の先生は障害児教育のことを知ってほしい。
- まちづくりの視点から言えば、八代市にはすばらしい団体や人がいるのに、横のつながりがない。それをつなげるのが市の仕事だと考えている。
- 将来像として草津の市民憲章のようにわかりやすいものにする。それに向かって、みんなが歩み寄る。結果として、情報共有が点から線、線から面になることが大切である。
- 福祉を進めるためには、町内が大切。障がい者が障がい者といえるまちづくり、障がい者だけでなく様々な障がいを持つ人たちが一緒になることが大事である。市民は福祉のことについて町内のことを考える、みんなが福祉に関わる社会の形成が必要である。
- 福祉施策は後退している。H30から65歳以上の障がい者はすべて介護保険対象となり1割負担が発生する。「障がい者にやさしい」は、高齢者や子どもにもやさしいはずである。そのために社会福祉協議会と市は連携すべきである。
- 様々な活動をしているが、基本はコミュニティの見守り活動であり、地域で話ができる環境づくりをしている。
- 最近の傾向として生活困窮者の相談件数は増えている。内容は経済的なものとしては就労支援の相談が多い。ただし、生活困窮者は個人情報保護の視点が必要である。そのため、相談等で

職員はきつい思いをしている。

- 相談後の市内シェルターやフードバンクは民生委員協議会等をはじめ協力してもらっている。
- 就労についても関係機関にもなげかけている。この前段として社協で無料紹介のしくみを考えている。
- 生活支援コーディネーター(市委託) 事業については、ゴミ出し、買物代行等に関して現在調査中であり、これをもとにモデル6校区を中心に取り組む予定である。これは、小地域ネットワークの見守り支援の担当者の意見も聞きながらしていく。
- 地域活動事業である「いきいきサロン事業」では、ここ数年サロン運営の世話役であるサポーターの成り手がなく、衰退していくサロンもあり、今後、サロンのあり方検討する必要がある。
- 事業運営については、自主財源となる収入のここ数年の減少を受けて、事業の見直し、使途の見直し及び財源確保の取組を行っており、更なる財政健全化に向けた取組が必要である。
- 会員の高齢化とともに、会員減や会長の成り手がいないこと等からクラブが減っている。
- 組織的には関係者のみに留まっている。
- 活動は、クラブ加入者の人によるところが多い。

メインテーマ
『協働によるまちづくり（地域のコミュニティ形成）について』

日 時：平成29年1月20日（金） 13：30～15：00

出席者：NPO 法人ネット八代、八代市市政協力員協議会、八代市消防団、八代市地域婦人会
連絡協議会、八代みらいネット

1 実施概要

今回の災害を契機に、災害時や緊急時における地域単位での活動の必要性はますます高ま
っているところです。一方、地域には様々な組織（団体）が存在しており、これらの組織の
ネットワーク化を図り、新たな地域のコミュニティ組織の形成を目指しているところです。
地域における現況と、今後の地域のコミュニティのあり方等について、防災・防犯、交通安
全等地域の安全・安心を含めてヒアリングを実施。

13：30



1. はじめに

- (1) 趣旨説明
- (2) 八代市総合計画の概要説明

13：40



2. ミーティング

- (1) 自己紹介
 - (2) 意見交換
 - ① 協働によるまちづくり(地域のコミュニティ形成)について
 - ② 今後のまちづくりについて
- (想定しているテーマ)
- ・県南フードバレー構想の推進と農林水産業の振興
 - ・八代地域におけるにぎわいの創出について
 - ・八代の自然環境保全等
 - ・社会福祉・子ども子育てを取り巻く環境について

14：50

2 各団体からの意見

各種団体のみなさまから、以下のようなご意見をいただきました。

- 公民館は、H29から市民活動政策課の所管で「コミュニティセンター」に替る。これまでは生涯学習の視点で校区ごとに公民館主事が支援してくれていたが、市民活動支援課が入るとまちづくりが主となる。これは動きにくいと感じている。
- コミュニティセンターに替ることによって市、県とのつながりが出てくるが、婦人会としては市や県につながらなくてもいいのではないかと考えている。
- 今は団体が育たない時代だと思う。
- まちづくりで言えば、各校区の住民自治のあり方等に地域差が出ると感じている。リーダー次第で地域(校区)が左右されるため、同じ市民でも同じサービス受けられなくなるのではと思っている。
- なお、合併の効果はあったと思うし、活動に必要な情報はとれないということはないと思っている。
- 肥薩おれんじ鉄道八代駅指定管理の後には、住民自治活動の助言、まちづくり団体の育成活動を行っているものの、後継者の育成と事業の柱が定まらないことが課題となっている。
- 今まで培った人脈、情報を活かして人材育成を行い、力のある団体をどう組み合わせるか等行政まかせにはせず、自由な発想で動ける、まちづくりコーディネータとして活動したい。地域活性化センターは有効な情報源である。
- 今、地域づくりにおいては「食」に力を入れている。がんばっているところは女性が強いと思う。
- 団体活動は共通の思いのある人を集めて活動すれば成功するし、得意不得意を見極めて人材の配分をすることが大切である。
- NPOに関係なく、若い人は育っている。かれらをつなぐ仕事を考えたい。ミニSLを媒介にしてつなぎの業務を考えている。
- 合併によって人材の魅力も広がった。あとは、かれらをどう結び付けるかである。
- 市役所の職員も、居住する地域では一住民となって取り組んでほしい。
- 以前は、青年団、4Hクラブ等を通して縦のつながりがあった。それが無くなってくると、コミュニティの維持等は難しい。若い人を中心に団体に入れて勉強させることも大切である。
- 自主防災組織は高齢者が中心である。リーダーは話し合いで決めるのが望ましい。

- まわりの人を知ることが一番大切なことである。(おおまかな情報は聞ける)
- 市全体としては個人情報があってもいいが、町内においてはそれぞれで情報が集まるので、ケースバイケースでいいのではないか。
- 合併によって、規模の効果は出ている。
- 協働のまちづくりで大切なのは、人材発掘や人材育成のしくみづくりである。とくに次世代の育成の意味から30-40代女性が必要である。
- 地域に情報をたくさん持っている人をつくることも地域づくりには大切である。
- 団体としては、団体の主旨を理解し、継続して取り組んでいってもらう人材がなかなかいないのが実情である。
- 関係団体としては、婦人会 消防団は絶対必要と考えている。
- まちづくりにはリーダーがいない 若い人がいないことではない。協調性がないひとが多い。
- 民生委員児童委員との連携は、校区では市政協力員と民生委員児童委員は一体と考えるが、うまくいっているところとそうでない校区がある。基本はコミュニケーション能力等リーダーの資質。
- 公民館からコミュニティセンターへの移行に伴い、各校区で行っているユニークな取組を進めるため新しい人材の雇用を進めているが、予算もついてまわるのでなかなかいない。
- 自主防災で動くのは若い人、さらに動く人は相談すると、話し合いをする。トップダウンは避けたい。
- 行政も住民自治についての意識改革をした方がいい。コーディネータとしての役割を担ってほしい。